



みんなで育む 学びのまち 真室川

～ふるさとを愛し 高い志をもって 未来をひらく 人づくり～



第10弾

真室川スタディツアー 学びのしおり



(国指定重要文化財)
銅造如来倚像



現在の真室川町を眺望



五郎前遺跡出土「土偶」
(国指定重要文化財)



元亨四年阿弥陀三尊板碑
(県指定文化財)

大人の
社会科見学
第10弾

小学生からOK!

真室川
スタディツアー
いま、真室川が
おもしろい!
真室川の宝箱 編
PART 1

～国指定重要文化財と県指定文化財に出会う旅～

令和5年10月21日(土)

7:15～



鮭延城跡(町指定史跡)



正源寺山門(町指定文化財)



鮭延秀綱公墓



鮭延城跡(航空写真)

【ツアー行程】マイクロバスおよび徒歩で移動します ※12:00頃終了予定

受付(7:15～7:30) ⇒ 開講式・オリエンテーション ⇒ 元亨四年阿弥陀三尊板碑
(光明院・県指定文化財)見学 ⇒ 正源寺山門(正源寺・町指定文化財)見学 ⇒
⇒ 五郎前遺跡出土「土偶」(正源寺・国指定重要文化財)見学 ⇒ 鮭延秀綱公墓
(正源寺)見学 ⇒ 鮭延城跡(町指定史跡)見学 ⇒ 銅造如来倚像(内町薬師堂・
国指定重要文化財)見学 ⇒ コーヒータイム ☉・閉講式(真室川公園)

真室川町教育委員会 真室川町中央公民館

第 10 回真室川スタディツアー「いま、真室川が面白い！」

真室川の宝箱編 PART1

～国指定重要文化財と県指定文化財に出会う旅～

開 講 式 次 第

会 場：真室川町役場正面玄関前

時 間：7:30～7:45

1. 開 会
2. 主催者あいさつ
3. オリエンテーション
 - (1) 事業の概要・タイムテーブル
 - (2) 事務連絡(体調管理等の諸注意を含む)
4. 閉 会

閉 講 式 次 第

会 場：真室川公園

時 間：11:30～11:45

1. 開 会
2. 講 評
3. 修了証交付
4. 主催者あいさつ
5. 記念撮影
6. 閉 会



みんなで育む 学びのまち 真室川

～ふるさとを愛し 高い志をもって 未来をひらく 人づくり～

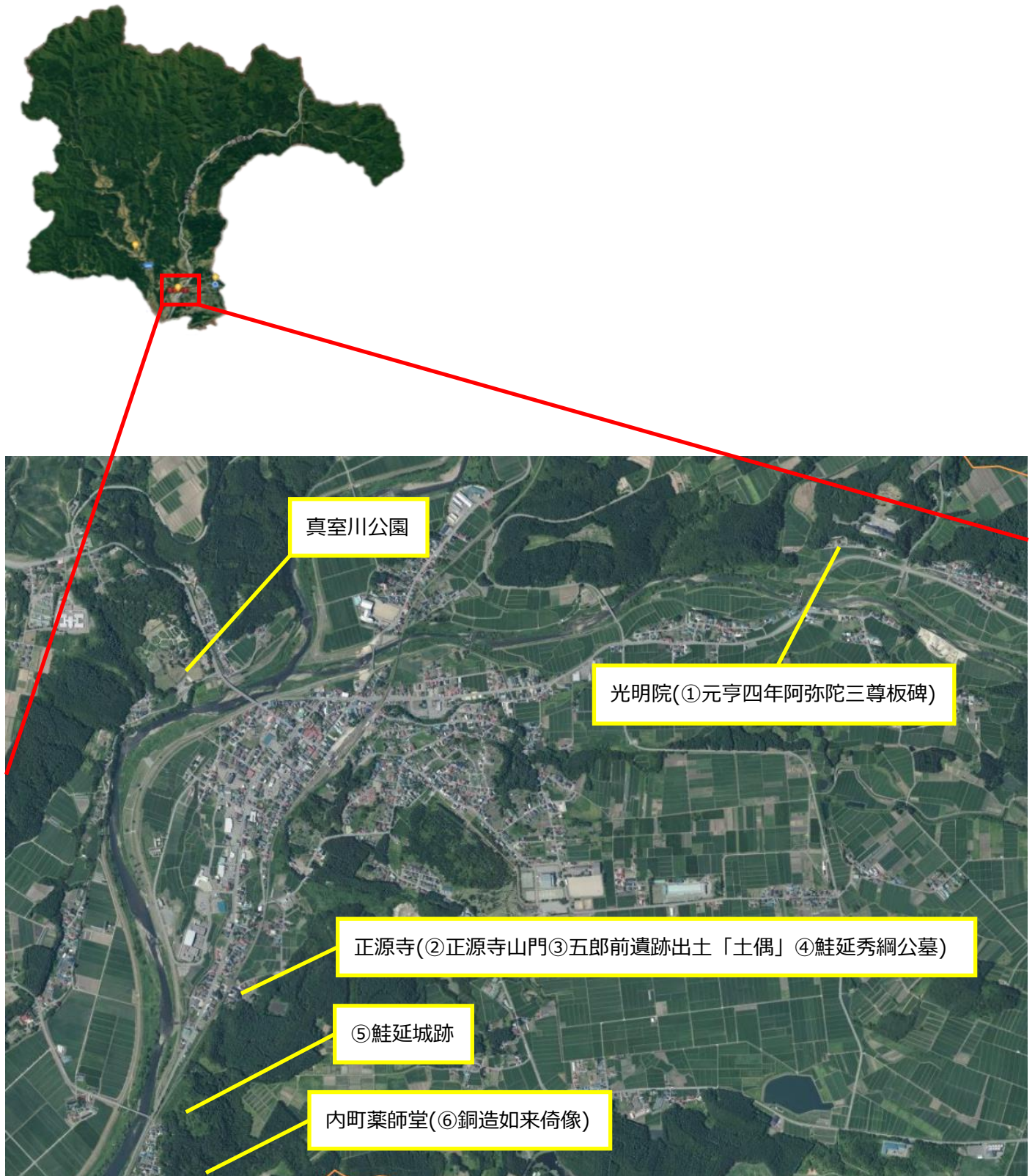


【スタディツアーについて】

真室川町のスタディツアーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

真室川町にはたくさんの宝物がありますが、地域の方々からは「真室川町には何もない」との声がしばしば聞かれます。子ども達は学校での「ふるさと学習」により、地域の宝物を多く学んでいます。しかし、その親・祖父母世代である大人は、真室川の本当の宝物や魅力を知らないままに生活している方が、案外いらっしゃるのではないのでしょうか。そのようなことから、今回、改めて地域の宝を再発見する社会科見学を企画しました。子ども達と一緒に大人も町の良さを見つめなおすことで、「真室川町にはいいところがたくさんある」と自信を持って言える方が増えることを期待しています。

【見学地の位置】



【真室川町の概要】

(令和5年9月末現在)

○人口: **6,700** 人 ○世帯数: **2,556** 世帯

町のシンボル

◎町の木 「梅の木」



◎町の鳥 「ウグイス」



◎町の音頭 「真室川音頭」



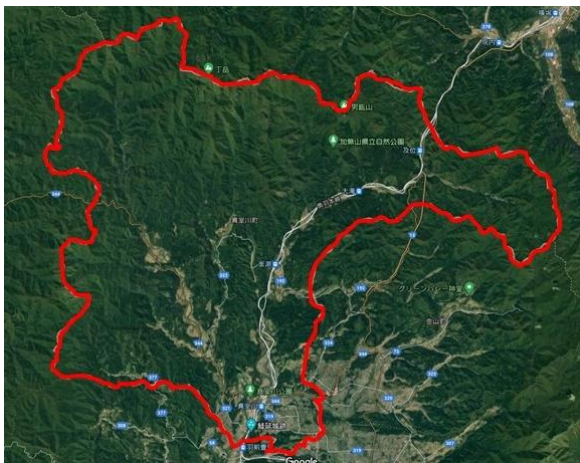
◎町の花 「梅」



◎町の魚 「ハナカジカ」



◎町の昆虫 「ハッチョウトンボ」



地目	面積(km ²)	割合(%)
山林	295.05	78.8
田	20.61	5.5
畑	3.17	0.8
宅地	2.44	0.7
原野	9.22	2.5
その他	43.73	11.7
合計	374.22	100

(H31.1.1 時点)

真室川町は、山形県の内陸最北部に位置し、北側は秋田県に接している。

町の約79%が山林の中山間地域であるため、古くから林業・農業が盛んである。

また、各地区には伝統文化が数多く継承されており、番楽・囃子・わらべ唄のほか、伝承野菜等も引き継がれている。

① 元亨四年阿弥陀三尊板碑(げんこうよねんあみださんぞんいたひ)

【県指定文化財】



【光明真言】

密教で日常となえる聖句で、大日如来への祈願を表している。

これをとなえれば、罪障消滅し福楽長寿を得、浄土往生ができるとされる。

真言とは、心理を語った言葉という意味である。

意識

帰命す、効験空しからざる遍照の大印、大日如来の大いなる光明の印よ、宝珠と蓮華と光明の大徳を有する智能よ、われらをして菩提心に転ぜしめよ

(オン) (ア ボ キ ヤ) (ベイ ロ
シャ ナ ウ) (マ カ ボ ダ ラ)
(マー ニ) (ハ ン ド マ) (ジン バ ラ
(ハ ラ バ リ タ ヤ) (ウン) 休止符

【メモ】

真室川町平岡地区の光明院に所蔵されており、鎌倉時代末期の元亨四年(1324年)の年号が刻まれている、高さ 66cm、幅 24cm、厚さ 3cm の大きさの板碑である。

碑面上部に、梵字で蓮華座の載るキリーク(阿弥陀)、その下にサ(観音)、サク(勢至)を配して、弥陀三尊の趣旨を刻んでいる。

その下方の中央部に「元亨四年四月廿日」、その左右に光明真言の梵字二十七字を 4 行に刻んでいる。石材は武蔵地方特産といわれる緑泥片岩、いわゆる武蔵石を用い、形は典型的な武蔵型である。

【山形の宝検索 navi(山形県)ホームページより引用】

② 正源寺山門

【町指定文化財(建造物)】



【メモ】

この山門は、旧朝日村大網の湯殿山大日方の総門であったが、昭和 36 年に正源寺 23 世閑雲旭處和尚(かんうんきよくしよおしょう)によって正源寺に移築された。

高さ 13m、間口 9.7m、奥行き 6.1m、12 脚の堂々たる楼門(スギ材)であり、入母屋造りの大きな屋根、楼上の欄干付き回廊、花頭窓などの特徴がある。

当初屋根は茅葺きであったが、移築後に銅板葺きに改められた。

江戸時代末期の建築とみられ、湯殿山信仰の盛時を偲ばせる貴重な建造物である。平成元年 12 月 16 日、町文化財に指定。

③ 五郎前遺跡出土「土偶」

【国指定重要文化財】



【メモ】

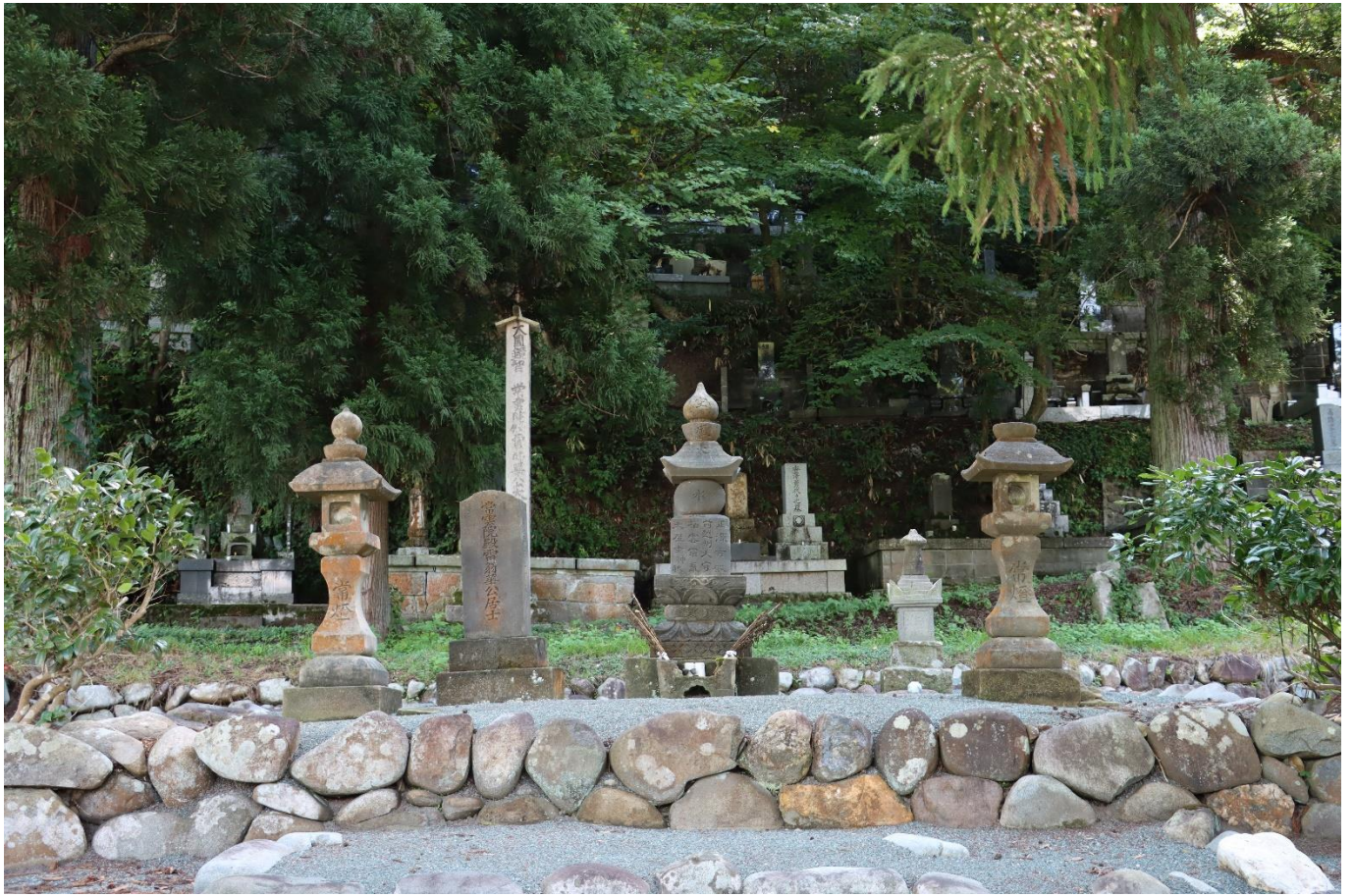
真室川町大字釜淵字五郎前出土(身長 23.4cm 大洞 A'式)。

この土偶は、大正 4 年、当時田んぼだった釜淵字五郎前遺跡から発見された。縄文時代晩期の完全な形をした貴重な完形土偶で、多くの専門誌や美術誌に掲載され、海外にまで紹介されている。

内部は空洞で、色は赤みがかった褐色をし、頭髪は大きく束ねて髷のような形をしている。肩から乳が張り出し、腰にパンツのようなものをつけ、太い両足を持っている。焼成後に朱を塗ったらしく一部にその跡が残っている。

昭和 40 年 5 月 29 日、国の重要文化財に指定。

④ 鮭延秀綱公墓



【メモ】

近江佐々木源氏出身で最上地域の北部を収めていた鮭延貞綱の息子、秀綱の墓。秀綱は鮭延城主の時に最上義光による鮭延城攻めを受け、のちに最上家の家臣となり活躍。

しかし、最上家がお家騒動により改易となると老中土井利勝預かりの身となり、最後は茨城県古河市(姉妹都市)で 84 歳の生涯を閉じた。

自らの財産を家臣たちに分け与え、自身は家臣たちの家を転々としながら過ごしたとされる。

茨城県古河市には秀綱の菩提寺として鮭延寺(けいえんじ)が建立されている。

⑤ 鮭延城跡

【町指定史跡】



【メモ】

近江国佐々木源氏出身で最上地域の北部を収めていた鮭延貞綱が居城として築城。貞綱の息子、秀綱のときに最上義光による鮭延城攻めが行われたが、城を落とすのに2年を要し、その堅固さから北の要害と名を轟かせた。

秀綱が最上家改易で老中預かりの身になると、新庄藩祖戸沢政盛が仮城として入るが、3年後には新庄市沼田に新庄城を築き、鮭延城は廃城となった。

鮭延氏(佐々木氏) 略歴

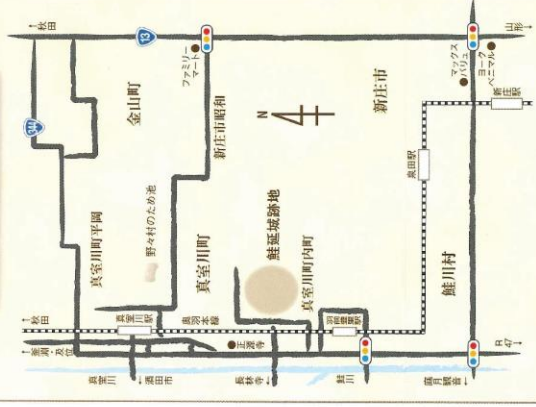
文明 8 年 (1476) 佐々木綱村、近江国より下り仙北小野寺氏の関口の番城を預かる
 天文 4 年 (1535) 貞綱のとき、戸沢村岩鼻に入る この頃、鮭延城を築く
 永禄 5 年 (1562) 秀綱誕生
 永禄 6 年 (1563) 庄内武藤氏より岩鼻権を攻められる 秀綱 2 歳で武藤氏の人質となる
 天正 10 年 (1582) 秀綱 21 歳のとき、庄内から戻り鮭延城主となる
 天正 13 年 (1585) 最上義光による鮭延城攻めの後、最上家の家臣となる
 元和 8 年 (1622) 最上家改易 秀綱、老中土井利勝の預かりとなる
 元和 9 年 (1623) 秀綱罪を許され、下総国佐倉藩 (千葉県) へ、五千石を賜り土井利勝の客人となる
 寛永 10 年 (1633) 土井利勝の古河藩 (茨城県) 転封に伴い、秀綱も移る
 正保 3 年 (1646) 秀綱没する (享年 84 歳) 家臣 14 名が土井家に仕官する
 慶安 元年 (1648) 秀綱の菩提寺として鮭延寺が建立される (茨城県古河市)



鮭延城跡から真室川町を望む

JR真室川駅から 車で5分
 徒歩15分
 JR羽前豊里駅から 徒歩10分

鮭延城跡へのアクセス

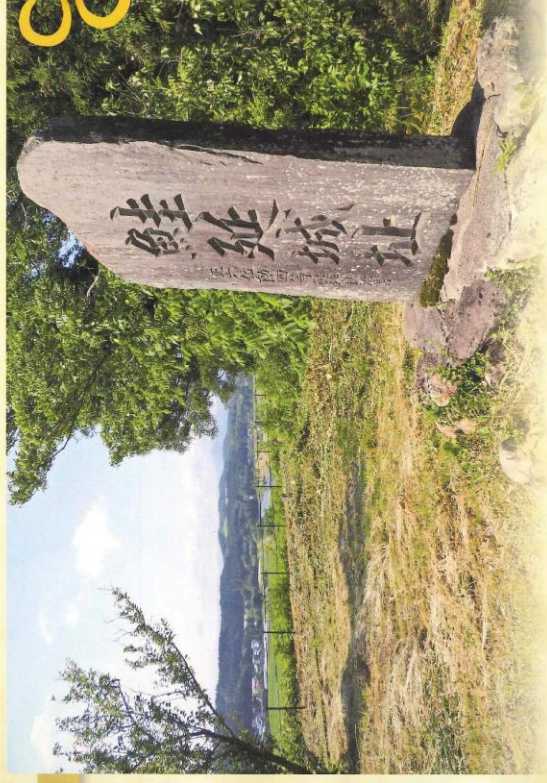


発行 真室川町教育委員会

山形県最上郡真室川町大字新町 233-1
 TEL0233-62-2305/FAX0233-62-2306

真室川町指定史跡

鮭延城跡



鮭延城は列名「真室城」とも言われ、近江国 (現在の滋賀県) 出身で最上地域の北部を治めた鮭延氏の居城でした。

天文 4 年、鮭延貞綱が真室郷に城を築きました。その息子である秀綱のときに最上義光による鮭延城攻めが行われましたが、城を落とすのに 2 年を要し、その堅固さから北の要害と名を轟かせました。

最上家の家臣となった秀綱の活躍はめざましく、長谷堂合戦で上杉の山形侵攻をくい止め、後に家老になりました。

元和 8 年の最上家改易に伴い、鮭延秀綱は老中土井利勝の預かりとなり鮭延城を去りました。

元和 9 年に新庄藩祖戸沢政盛が仮城として鮭延城に入りましたが、3 年後、沼田に築いた新庄城に移り、廢城となりました。
平成 7 年 3 月 30 日、町の史跡に指定されました。

真室川町教育委員会

モデルコース

Aコース 大手門口 ⇒ 曲輪 ⇒ 井戸跡 ⇒ 虎口 ⇒ 大手門 ⇒ 本丸
 Bコース 搦手門口 ⇒ 帯曲輪 ⇒ 搦手門口 ⇒ 大手門 ⇒ 本丸
 Cコース 薬師堂入口 ⇒ 薬師堂 ⇒ 堀切 ⇒ 搦手門 ⇒ 大手門 ⇒ 本丸

① 曲輪 (くるわ)

城の区画。傾斜地を起って水平にしている。

② 敵塹壕

斜面に上下方向に設けた堀。

③ 堀切

空堀の一種で、敵の侵入を防ぐため掘削した東の守りの地点。

④ 虎口 (こぐち)

城の要所にある出入り口。耕形の仕切りをもち、その中を曲折して出入した。

⑤ 搦手門 (からめてもん)

城の裏門で有事の際はここから城外へ逃れた。

⑥ 矢竹

矢軸の材料として使用された。

⑦ サイカチ

マメ科の落葉高木。豆果は石銃の代用や薬として用いた。

⑧ 帯曲輪 (おびぐるわ)

城の山腹に付けた細長い曲輪で、搦手門口には広大な跡が見える。「馬場」とも言われた。

⑨ 御前堀 (ごぜんぼり)

初代新庄藩主戸沢政盛の正室、貞室御前の墓所。

⑩ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

⑪ 平岡館 (ひらおかだて)

柿崎能登守の居城。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

⑫ 北陣場跡

天正13年、最上氏が桂城を攻めた際に築いたもの。北陣場と南陣場があり、北陣場後方に本陣と思われ、延元能登守の跡で、俗に延元陣といわれている。

⑬ 看経森 (かんきんもり)

天正13年、最上氏の桂城を攻めた際、最上・桂城の討死者を合葬した墳墓。毎年彼岸会を開催していた。

⑭ 井上將監堀安松没跡

桂延秀綱の弟知知の跡で、天正13年(碑には「19年」)、最上氏の桂城攻めで戦死した。その後、綱知が井上將監を名乗る。

⑮ 三弘山正源寺 (さんこうざんしょうげんじ)

天正18年5月、桂延氏の養子寺として建立した。正面の壮大な山門は、元は湯殿山大日坊の総門であった。平蔵元年に町の文化財に指定された。国の重要文化財「土偶」が安置されている。

境内裏手に貞綱・秀綱公の墓所がある。(上段写真：山門) (下段写真：墓所)

⑯ オクミ館 (おくみだて)

藤森殿、御相殿ともいわれ、桂延氏の足輕と力などが居住した小丘地。当時は物見堀があり、時刻などを知らせる鐘があったとされる。

⑰ 薬師堂 (やくしどう)

ここに安置されている如来像は、桂延氏の近江国からの持念仏とされ、境内に疫病が流行った時に人々に捧げられた。たちどころに治ったといわれている。白鳳文化の特徴をとらえている。昭和62年に国の重要文化財に指定。(写真：銅造如来像)

⑱ 御前堀 (ごぜんぼり)

初代新庄藩主戸沢政盛の正室、貞室御前の墓所。

⑲ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

⑳ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉑ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉒ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉓ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉔ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉕ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉖ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉗ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉘ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉙ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉚ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉛ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉜ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉝ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉞ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㉟ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㊱ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㊲ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㊳ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㊴ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㊵ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㊶ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㊷ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㊸ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㊹ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

㊺ 御前堀 (ごぜんぼり)

貞室御前の墓所。幼少から桂城に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に代わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

⑥ 銅造如来倚像(内町薬師堂)

【国指定重要文化財】



【メモ】

本造は白鳳時代の仏像の特徴をよく表している。高さ 54.5cm、座高 38.1cm、重量 19.5kg の銅造鍍金像(とकिनぞう)で、頭頂から足先まで鋳型で一挙に鋳造された像である。形は古い倚像形式で、頭部が大きく、両頬の肉付きが豊かな童顔の表情から白鳳時代末から天平時代初めの政策と考えられている。

本像は戦国時代に当地方を領した近江源氏佐々木氏が近江国鯉江(現在の滋賀県)から持参して来たと伝えられ、初代城主鮭延貞綱時代に悪病流行の折、城南に堂を建立して土民に参拝させたと云われている。

昭和 62 年 6 月 6 日、国の重要文化財に指定。

国指定重要文化財

どうぞうによらいいぞう 銅造如来倚像

真室川町文化財保護委員会

銅造如来倚像は、鮭延城跡南側高台にある山神社境内の薬師堂に安置されている。

鮭延城は、戦国時代この地方一帯を支配した鮭延氏の居城であり、鮭延氏はもと佐々木姓であり、近江国鯉江庄（現在の滋賀県東近江市地内）の下司職であったが、佐々木重綱のとき一族の内紛があり、綱村のとき出羽国に降り鮭延城を居城とした。

その後の永禄時代、この地に悪疫が流行し、毎日多くの士民が亡くなった。当主であった鮭延典膳貞綱公は大変心配され、本国滋賀県から伝来した如来像を奉じて城の内外を巡行し、みんなに参拝させたところ、みな全快したので大変喜ばれた。その後、城内に御堂を建立して引き続き士民に参拝させ、毎年縁日には祭礼をするようになった。

この仏様は、子どもと遊ぶことを無上の楽しみとしているといわれ、子ども達はこの御堂に集まり仏様と遊び、仏様に緑青（ろくしょう）が出ると下の小川に持って行き、洗ってやったという。

堂内には無数の穴あき石が奉納されているが、目の不自由な人や耳の遠い人が、先が見えるように耳が聞こえるようにとしたものである。ほかにも皮膚病や流行病にも格別の効力があるといわれ、参拝する人で賑わっていた。

銅造如来倚像は倚座型式の黒褐色のなめらかな鑄肌の銅製で、製作当初は全身に金箔が貼られていたが、今は目や耳朶等に痕跡が残されている。

総重量 19.5 kg、総高 54.5 cm。制作年代は白鳳時代といわれ、昭和 62 年に国の重要文化財に指定された。

昭和 59 年	3 月 19 日	真室川町文化財に指定
昭和 60 年	8 月 16 日	山形県文化財に指定
昭和 62 年	6 月 6 日	国重要文化財に指定



【タイムテーブル】

時 刻	内 容	摘 要	所 要 時 間
7:15	受付開始		15 分
7:30	開講式	役場庁舎玄関前	15 分
7:45	バス移動 (役場庁舎→光明院)		15 分
8:00	元亨四年阿弥陀三尊板碑見学	【説明】 歴史民俗資料館 館長 高橋剛文	30 分
8:30	バス移動 (光明院→正源寺)		15 分
8:45	正源寺見学 (山門見学・講話・お宝見学)	【講師】 正源寺 住職 鮭延節侯氏	40 分
9:25	鮭延秀綱公墓見学	【説明】 歴史民俗資料館 館長 高橋剛文	10 分
9:35	バス移動 (正源寺→鮭延城跡)		15 分
9:50	鮭延城跡見学	【説明】 歴史民俗資料館 館長 高橋剛文	40 分
10:30	徒歩移動 (鮭延城跡→内町薬師堂)		10 分
10:40	銅造如来倚像見学	【説明】 歴史民俗資料館 館長 高橋剛文	20 分
11:00	バス移動 (内町薬師堂→真室川公園)		15 分
11:15	休憩	真室川公園にて	15 分
11:30	閉講式	真室川公園にて	15 分
11:45	バス移動	中央公民館へ	10 分
11:55	解散	到着後、適宜解散	